「遊び力・子ども力」支援講座★通信第1号★ 発行日：2018年8月1日

【第一回講座を終えて】

参加者は保育教諭（小林夕華先生、二間華先生）や幼稚園教諭（七野美咲先生、谷村さくら先生）4人と山田拓佳一家4人（妻、年長男児、小学3年女児）、富山大学理学部学生の日備野正伸君です。それに、ゲスト（紙芝居師・飯田美智子さん、遊ばせ屋の上田健二さん、空気砲研究家？山田拓佳さん）や招待者（富山市立看護専門学校・濵田薫さん）やスタッフ（大工・折本和洋さん、浅井雅代さん、松島弘行さん）を加えて、全員で15人でした。内容は午前は10時から12時まで早川たかしの「遊びのワークショップ付き講演」で、午後はゲストによる遊びのワークショップ（段ボールの空気砲作りやけん玉遊び）が満載の時間でした。

参加者から感想をいただきました。ありがとうございます。「夢中になりすぎていて、気がついたら大量の汗をかいていました。このようなことが遊び力・子ども力なのだと感じました。」「子どもが遊べなくなっている原因が大人にあると知り、子どもの身近にいる大人の言動が、すごく大きな影響を与えるのだなと、改めて思いました。」「子どもの遊びに、大人が〝汚い〟〝うるさい〟〝危ない〟などといった感情を抱いていると、子どもが大人の気持ちを忖度して、自らおりこうさんになろうとして、遊べない子どもになっていくことは、本当に怖いことだとわかりました。」

臨床心理士の濵田薫さんは「早川ワールドにどっぷりつかって、私の心は子ども時代にタイムスリップしていました。ただその時間を〝遊びの世界〟に浸る。まるで〝あそびのプール〟の中に居るような、まるで〝子宮〟の中にいるような気分だった。」と表現しています。

受講者は少なかったけれど、まずまずの歩みはじめだと感じました。この講座に寄せる私の思いも膨らんできました。

一つは、社会的な立場や年齢などを超えて、それぞれの参加スタイルが可能な「講演」形式を作り上げたいと思いました。

二つ目は、ゆったりとした時間の流れの中で、子どもにかかわる仕事に就いている先生たちを遊びのワールドで包んであげたい。そこから、それぞれの物語を創造し、実践力のある人材作りの場にしたい。

これらの実現をめざして!! ご期待を!!

○参加者を代表して二間華先生の感想を載せました。

※※※